

「知る」

エピソード

紀子は中学1年生。学校からの帰り、友だちとしゃべりながら、ゆっくり家に向かって歩いていた。すっかり話がはずみ、家の近くで、公園のベンチに座って話をしていると、気がつかない間にあたりが暗くなっていた。

紀 子：「（ぱっと時計を見て）あっ、もうこんな時間だ、早く帰らないと門限に間に合わない。お母さんに怒られちゃう！」



紀子はあわてて友だちと別れ、家に帰った。

（家に着いて）

紀 子：「ただいま〜。」

裕 美：「ただいまじゃないでしょ、今までどこに行ったの?!」

紀 子：「どこって・・・別に公園で話をしただけよ。」

裕 美：「今、何時だと思ってるの?外はまっくらになってるでしょ。」

紀 子：「だって、話がはずんじゃったんだもん。たまにはいいじゃない。」

そう言って、紀子は自分の部屋に行こうとした。

裕 美：「待ちなさい!ちゃんと門限に間に合うように帰ってきなさい。」

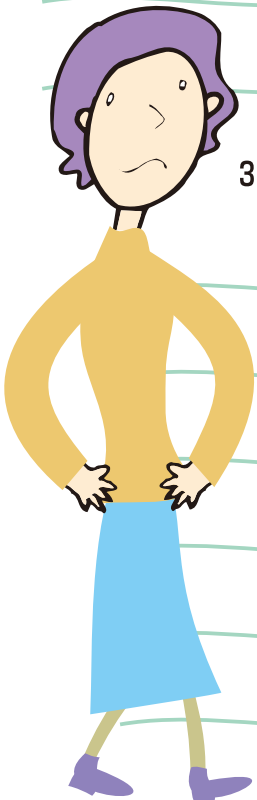
紀 子：「はいはい、ほんとにうるさいんだから。」

グループワーク

1 あなたが紀子だったら、お母さんに対してどのように言うと思いますか。



2 お母さんはどうしてこんなに怒るのだと思いますか。



3 あなたの親はどんな時に怒りますか。それはなぜだと思いますか。
